

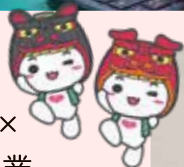
AkiHO

2025年 春
vol. 65



ご自由におとりください。

[酒田市]
地域包括×健康増進×
医療介護連携 DX事業



安心して暮らせる
地域をめざします



特集

デジタル田園都市国家構想

理事長挨拶

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
理事長 島貫 隆夫



「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構」は、平成20年4月に山形県と酒田市により共同設立され、急性期の「日本海総合病院」と回復期を主体とする「日本海酒田リハビリテーション病院」の2つの病院の運営にあっています。また、平成30年4月に新たに酒田市から移管統合された日本海八幡クリニック及び市内5診療所の運営も行っていきます。

さらに、同年4月には、当法人が中心となり、医療・介護・福祉

の切れ目のないサービスを将来にわたり地域に安定的に提供することをめざし、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットワークを設立いたしました。これまでの皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

庄内地域での不妊治療の継続・拡充を図るため、令和7年4月には生殖医療センターを開設いたします。不妊治療を希望する方々に寄り添いながら、地域の皆様に安心して治療を受けられる環境を提供したいと考えて

います。

さて、医療を取り巻く社会環境は、昨今目まぐるしく変化しています。庄内地域では人口減少と少子高齢化がより一層進行することにより、疾病構造が大きく変化し、様々な複合ニーズを抱えた方々が増加してきています。とくに高齢者の軽度急性増悪に対しては、

迅速な対応により早い回復が期待されます。そのためには、医療・介護の情報の共有、在宅と救急の連携など、ケアマネージャーなどの情報を地域で共有することが重要となります。症状が悪化する前に医療・介護・福祉などが介入し、地域全体で連携を強化できるようなICTを活用したシステムのリデザインが必要であり、今後は皆様と協力して理想的なシステムを構築できるよう取り組んでまいります。

人口減少と共に地域における新規入院患者数の減少、また高齢化の一環として、開業医の高齢化と減少も深刻化しています。看護師などの医療従事者の人手不足も課題となっており、今後の持続可能な医療体制を構築するためには、将来を見越した医療従事者の確保や医療提供体制の計画的な整備が急務だと考えます。専門的な急性期医療の集約化や地域医療災害への備えも重要であり、これまでの感染症対応を通じて得た経験から、地域全体での連携・情報共有が不可欠と言えます。

これらの課題への対応には、医療DXの推進が欠かせません。これからも医療を取り巻く環境変化を的確に捉え、思いやりの心を大切に、患者さんとその家族、そして医療・介護・福祉関係者の皆様との信頼関係を深め、共に支え合いながら、より良い医療サービスを提供してまいります。

基本理念のもと、職員一丸となつて力を尽くしてまいりますので、今後ともご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

電子処方せん



電子処方せんとは、これまで紙で発行していた処方せんを電子化したもので、当院では令和4年12月より発行を開始しています。電子処方せんに対応した医療機関・調剤薬局では、患者さんが複数の医療機関・調剤薬局で処方・調剤を受けていたとしても、患者さんの同意のもと、直近の処方・調剤情報まで確認することができ、成分が重複している薬（重複投薬）や飲み合わせの悪い薬（併用禁忌・併用注意）を服用していないかチェックすることができ、これにより、患者さんは今まで以上に薬剤情報にもとづいた医療を受けられるようになり、安心して薬を受け取ることが可能となります。

重複投薬…同じ効能・効果の薬が、受診した複数の医療機関から処方され、服用してしまうこと。同じ効能・効果の薬を服用すると、副作用を生じさせ、ときには健康被害を生ずるおそれがあります。また、医療費の負担も本来必要な分より大きくなります。

併用禁忌・併用注意…飲み合わせの悪い薬の組み合わせのこと。併用禁忌、併用注意となっている薬を同時に服用すると、薬の効能・効果が増強または減弱し、副作用などを生じさせ、ときには健康被害を生ずるおそれがあります。

電子処方せん開始から2年経過して

令和4年12月から令和6年12月までの間に当院では約10万4千枚の電子処方せんを発行しています。そのうち1710件のアラート情報により重複投薬や併用禁忌を防ぐことができました。また、現在では庄内地域の約15%の医療機関、約75%の調剤薬局で電子処方せんの取り扱いができるようになっており、地域全体で電子処方せんの普及が進んでいます。

電子処方せんとは医療DX

電子処方せんは、近年医療DXとして普及してきているオンライン診療やオンライン服薬指導、配送サービス、電子お薬手帳などに活用することができ、これらを組み合わせることで通院が困難な方でも自宅にいな

ら薬の受け取りまでできるようになります。

また、災害時には災害救助法により被災地や二次避難先の医療機関や調剤薬局などに限り、お薬手帳やマイナンバーカードがなくても直近までの処方・調

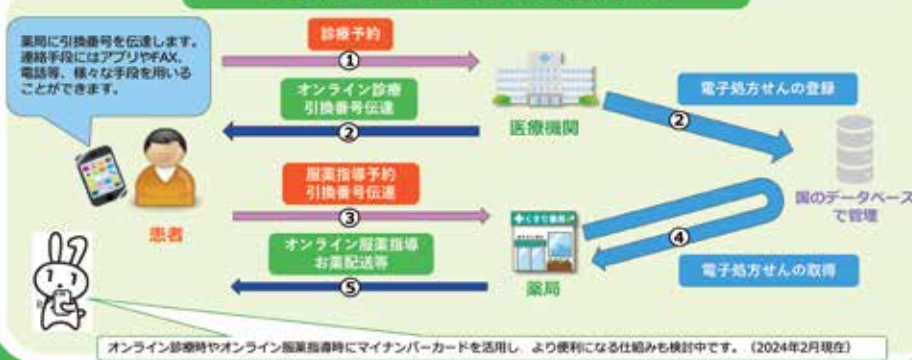
剤情報を確認することができ、ため、避難先でも継続した医療を受けることができます。実際に令和6年能登半島地震や令和6年7月25日に当地域で発生した大雨災害などでも有効活用された事例が報告されています。

オンライン診療が電子処方せんの利用でさらに便利になります！

- オンライン診療後に電子処方せんの引換番号を薬局に伝達することで、紙の処方せんを受け取り、薬局に提出する必要がなくなります。
- オンライン服薬指導との組み合わせを希望する場合、アプリ等を活用し、引換番号を薬局に伝達することで、紙の処方せんを提出する必要がなくなり、調剤までの一連の流れをオンラインに対応できるようになります。

オンライン診療における電子処方せんの利用イメージ

注1 下記のフローは一例です。服薬指導が対面となる場合もあります。



オンライン診療時やオンライン服薬指導時にマイナンバーカードを活用し、より便利になる仕組みも検討中です。(2024年2月現在)

出典：厚生労働省Webサイト https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/denshishohousen_kokumin.html

マイナ保険証利用のお願い

複数の医療機関・薬局で受けた処方・調剤の情報を参照するためには患者さんの同意が必要です。医療機関・薬局で受付する際にはマイナ保険証を積極的にご利用いただき、医療情報の参照への同意にご協力いただきますようお願いいたします。

特集

デジタル田園都市国家構想

みなさんは「デジタル田園都市国家構想」という言葉をどこで存じですか？
「デジタル」とも言われますが、今まで人が行っていたことを

デジタル化して、そのデジタル化が生むメリットで地方の社会課題を解決し、全国どこに住んでいても便利で快適に暮らせる社会を実現しましょう、という国の取り組みです。

デジタル田園都市 国家構想交付金

この取り組みに国は、地方自治体へ交付する「デジタル田園都市国家構想交付金」を創設しました。令和5年度に酒田市より「デジタル実装タイプ」の交付金の申請をしていただき国より採択されましたので、酒田市と協力して令和7年1月から「酒田市」地域包括×健康増進×医療介護連携DX事業」がスタートしました。



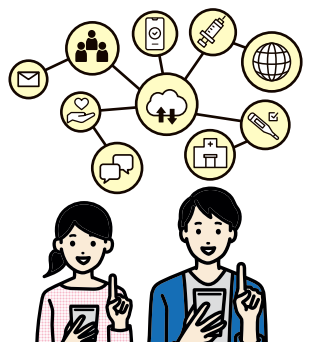
課題と「酒田市」 地域包括×健康増進× 医療介護連携DX事業

当地区が抱える課題に、医療従事者の確保と人口減少及び人口構成の変化があげられます。開業医の高齢化が進み、承継、後継者がいないため年々診療所が減少しています。また医師だけではなく、医療に携わる全ての人材確保がどの医療機関や介護施設などでも難しくなっています。人口構成も独居高齢者の増加や家族が遠隔地にいるなどの変化が見られ、このことにより当院では退院調整が難航するケースが多くなっています。ま

た、キーパーソンのいない身寄りのない方の対応に苦慮していることもあります。こういった状況が続くと、必要な人が必要な時に医療・介護サービスを受けることが出来なくなることが懸念されます。限られた医療・介護資源をフル活用して、住民が必要な時に、必要なサービスを提供できる体制にするには、医療・介護・行政の連携の強化と深化が必要になります。このことから、医療・介護分野におけるDXを活用して、課題を解決していきたいと考えています。

「酒田市」地域包括× 健康増進×医療介護連携 DX事業の三本柱 「MYSOS」・「受診支援 サービス」・「Team」

本事業では、三つのサービスを活用します。まず一つめは、**健康・治療生活サポートアプリ「MYSOS」**です。マイナポ



タルや電子処方せんシステムと連携し、患者さん本人がお薬の情報などを取得・閲覧することができ、医療機関を受診した際にはスムーズな情報提供に繋げることができます。一つめは、**受診支援サービス**です。AI問診システムに自己の症状や状態を入力することで、疾患の特定や対応可能な診療所を検索することができ、このサービスは、先に説明したMYSOSにリンクされています。また、MYSOSには酒田市のマスコットキャラクター「もしえのん・あのん」が表示されていますので、配信された際にはぜひスマートフォンにダウンロードして使用してみてください。二つめは、**医療機関と介護関係者などが患者さんの情報を共有するサービス「Team」**です。Teamのチャット機能を使い、介護者側が要介護者の体調や生活の変化を書き込むことで、医療機関が疾患の予兆などを見守

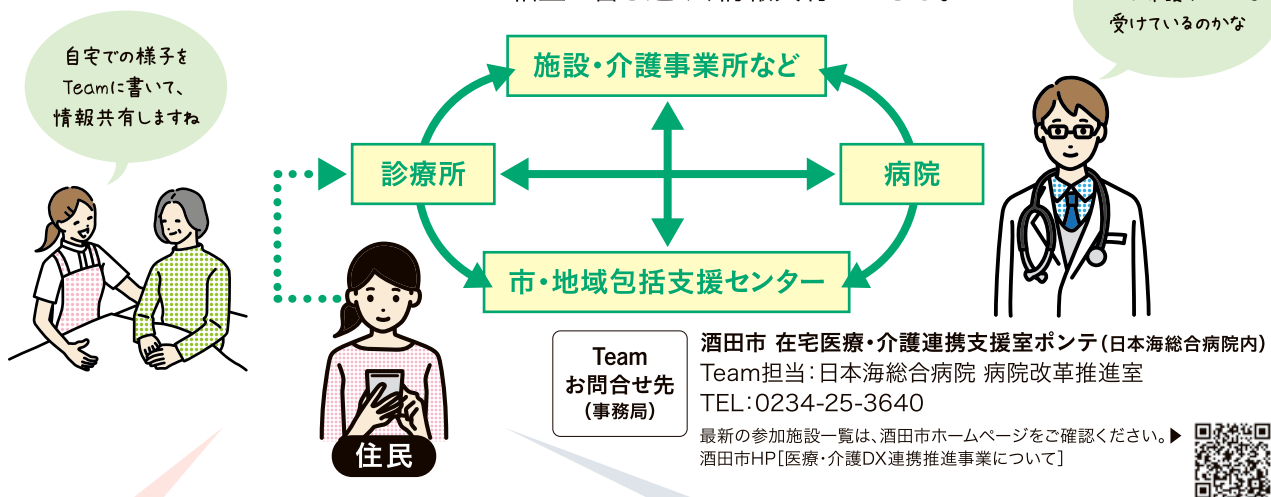
ることができません。例えば、一人暮らしの高齢者が搬送された際に、親族と連絡が取れなくても普段利用している医療・介護サービスなどの情報を医療機関側が確認することができ、迅速な処置につながることで期待されます。既に当院でも運用している医療情報共有システム「D-Link（ちようかいネット）」がありますが、医療側からの情報提供がほとんどだったため、これまで連携しきれなかった部分をTeamで補い、医療・介護関係者と双方向で情報共有がしやすくなると考えています。Teamは患者さんが情報共有したい施設・事業所を選択し、同意書をTeam参加施設に提出していただくことで登録、情報共有することができます。医療機関や各施設で運用を開始していますので、通院などの際に説明がありましたらご協力をお願いいたします。また、ICTは苦手だと戸惑うこともあるかもしれませんが、今回の「デジタル」事業を通して当地区の医療・介護・福祉の方たちの連携を強化し、一致団結してサービス提供にあたりたいと考えていますので、みなさんもご活用ください。



地域包括 × 健康増進 × 医療介護連携 DX事業

Team ▶ 医療・介護情報共有サービス Team

相互に書き込み、情報共有ができる。



▶ 健康・治療生活サポートアプリ MySOS



体重・血圧などのデータを管理でき、マイナポータルと連携することでお薬情報や検診結果が確認できる。

▶ 受診支援サービス

自己の症状や状態を入力することで(AI問診)、対象疾患の特定や対応可能な診療所を提案する。



職場や自宅近くの医療機関を探したり、受診したい診療科や時間が決まっている場合、フィルタで検索条件を絞ることができる。

私たちは、「ドクターズクラーク」です



「ドクターズクラーク」という職種、ご存じでしょうか？

簡単にいうと、医師の事務作業をお手伝いする職種で、受付や会計を行う「医療事務」とは全く別の職種です。

皆さんもご存じのとおり、医師は本当に忙しいです。そんな多忙を極める医師の業務の中の「事務でもできること」を私たちは医師の近くでお手伝いしています。

電子カルテへの入力作業は医師がきちんと責任をもって承認する、という条件で代行入力が可能です。当院のカルテは電子カルテなので、医師に代わって私たちドクターズクラークが多くのオーダーやカルテ記載を代行入力しています。代行入力のほか、診断書の下書き、退院時要約の作成、診察に伴う同意書の印刷・スキャン、症例登録も私たちの腕の見せ所です。

医療に関する知識もさることながら、当院は保険医療機関ですので、診療報酬の決まりに則って適切な診療を行わなくて

はなりません。当院のドクターズクラークは、診療報酬に強いのが一番の特徴です。診療報酬の決まりを熟知している私たちが多忙な医師の手が回らない部分を補うことで、保険医療機関としての責務を果たすことの一助になっていきます。そんな私たちには仲間が60名以上います！現場配属の方だけでなく、事務室で医師のサポートを行っています。仲間も多数おり、私たちも、患者さんのためにチームの一員として日々力を合わせて頑張っております。休憩中は、同僚同士で情報交換を行いながら、横のつながりを大切にして業務にあたっています。お子さんがいる方も多く働いていて、急な体調不良などで休まなければならぬいときにも、助け合いの精神で、フオロワーしあえる環境が整備されており、休みやすさも当院のドクターズクラークの特徴だと思います。

また、私たちドクターズクラークのことをもっと多くの人に知ってほしい！という思

いから、2023年11月、公式Instagramを開設しました。病院のホームページにも特設ページを設けております。Instagramでは、ほぼ毎日保険診療に関する豆知識クイズを開催中です。もしかしたら医療者、患者さん目線でも保険診療について役立つ情報があるかもしれません。ぜひ、毎日チェックしてくださいね！



配置状況(1階外来)

部署	人数
1階 整形外科	5
1階 形成外科	1
1階 内科・循環器科	9
1階 眼科	3
1階 外科	4
文書作成	3

配置状況(病棟)

部署	人数
7階 西	1
6階 東	1
6階 西	1
5階 東	1
5階 西	1
4階 東	1
4階 西	1
3階 東	1
3階 西	1
4階 南	1
3階 南	1
ICU・HCU	1
手術室	2

配置状況(2階外来)

部署	人数	部署	人数
透析室	1	2階 神経内科	1
2階 泌尿器科・診察室	2	2階 消化器内科診察室	5
2階 脳神経外科	1	2階 内視鏡室	3
2階 精神科	1	2階 小児科	1
2階 耳鼻咽喉科	2	2階 産婦人科	1



診療放射線技師とは

放射線を取り扱う専門家です。レントゲンやCT、MRI、核医学などの画像検査や、高エネルギーの放射線を用いた放射線治療を担当します。



佐藤 公彦

わたしたちの仕事



がん放射線療法
看護認定看護師

診療放射線
技師

異なる専門職でありながら、
仕事上関わりの深い二人にお話を伺いました



小田 久美

がん放射線療法看護認定看護師とは
放射線治療による副作用が最小限になるようにセ
ルフケア支援と、患者さんが納得して治療を受ける
ことができるように意思決定支援を行っています。

お二人のお仕事を教えてください

小田 私はがん放射線療法看護認定看護師として、主に放射線治療室で勤務しています。仕事は、放射線治療を受ける患者さんが安心して治療を受けることができるように、患者さんの思いを確認し、放射線治療による副作用について起こりやすい時期を予測して支援を行い、治療が無事に終わることができるよう働きかけています。

佐藤 診療放射線技師の仕事は画像検査と放射線治療に大きく分けられますが、私は現在放射線治療を担当しています。放射線治療にお



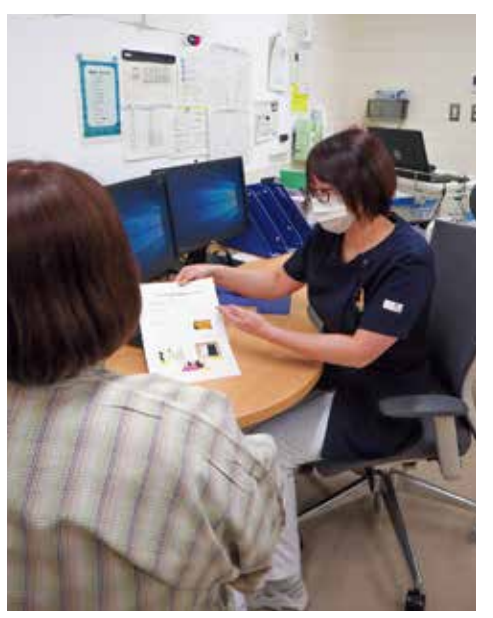
る診療放射線技師の仕事としては、治療計画用のCT撮影や、正確に治療を行うための固定具の作製、毎日の照射業務など多岐に渡ります。その他にも放射線治療機器の品質保証・品質管理や放射線の安全管理など、患者さんへの診療業務だけでなく医療安全対策も行っています。

どのように協力・連携していますか

佐藤 放射線治療では、医師、看護師、診療放射線技師、事務職員などの放射線治療チームがお互いに協力し、患者さんが安心して安全な治療を受けることができるよう努力しています。

小田 そうですね。具体的には毎朝、スタッフ全員で患者カンファレンスを行い情報共有をしています。また、治療計画用のCTでは患者さんが毎回同じ体勢で治療することが大切なので、安静が保てるように痛み止めの調整や固定具の作製を佐藤さんと一緒に行っています。

佐藤 私たちは患者さんと毎回顔を合わせますので、皮膚が紅くなってきたり発熱してるなどの患者さんの状態の日々の変化をすぐに発見することができます。そのような変化を看護師さんと共有し必要な



対応を話し合い今後の治療に繋がっています。
小田 困ったことをすぐに相談し合えるのは放射線治療チームの強みですね。

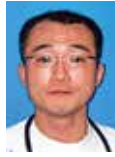
地域へのメッセージ

小田 患者さんが庄内地域でよりよい治療を安心して受けられるようにサポートをしていきますので、放射線治療についてわからないこと、不安なことがありましたらいつでも相談してください。

佐藤 放射線治療は治療装置や技術の進歩が進んでいる分野です。治療の際には患者さんと私たち放射線治療スタッフがチームとなってリスクと利益を検討し、最適な放射線治療を提供していきたいです。
小田・佐藤 これからもよろしくお願ひします。

医師異動

転入者 日本海酒田リハビリテーション病院



リハビリテーション科

菊池 謙次

前所在地: 日本海総合病院

転出者 日本海総合病院

内科 大沼 陸 山形大学医学部附属病院
神経内科 菊池 謙次 日本海酒田リハビリテーション病院
泌尿器科 堀 聡美 山形大学医学部附属病院

令和7年度 地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構

職員採用試験 実施計画

令和7年度に実施予定の採用予定職種は右表のとおりです。なお、各試験の詳細については、「受験案内」を確認してください。(令和7年3月3日現在)

令和7年度募集職種〈採用予定人数〉

看護師・助産師 〈45名程度〉	薬剤師 〈5名程度〉	臨床検査技師 〈若干名〉	診療放射線技師 〈若干名〉
理学療法士 〈5名程度〉	作業療法士 〈5名程度〉	言語聴覚士 〈5名程度〉	管理栄養士 〈若干名〉
歯科衛生士 〈若干名〉	事務系総合職 〈若干名〉	医療情報職 〈若干名〉	医療系事務職 (ドクターズクラーク) 〈若干名〉

- 若干名は1~2名程度を予定しております。
- 採用情報は随時更新となります。詳細はホームページをご確認ください。



採用情報はこちら▶

生殖医療センター 【令和7年4月開設】



編集後記

今号は、デジタル田園都市国家構想について取り上げてみました。

広報誌の制作に携わると当機構の最新情報を教えてもらう機会が多いので、わくわくしながら完成ページを想像しています。令和7年度は「生殖医療センター」が開設されます。広報誌AKIHOも当機構の新たな取り組みを追っていく

予定ですので皆さまもチェックしてみてください。

来年度も小さな愛(i)を皆さまに受け取っていただけるよう、読みやすく、親しみやすい楽しい紙面を心がけ、新しい企画にも挑戦できたらいいと思います^^

今後も広報誌AKIHOをよろしく願いいたします✿



地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構

基本理念

思いやりの心を大切にします。
質の向上に努め、安全な医療を提供します。
地域との連携を促進し、住民の健康と福祉の向上を目指します。
持続可能な病院経営を通して、地域に貢献します。

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。

TEL 0234-26-2001 (代表) 日本海総合病院 経営企画課広報誌担当まで

日本海総合病院では広報誌以外にも
情報発信を行っています!



臨床研修
Facebook
公式ページ



看護部
Facebook
公式ページ



日本海総合病院
X(旧Twitter)
公式アカウント
@nihonkai_hosp